

4月定例研究会（企画：同志社大学）

◆日時：2019年4月18日（木）14:50-17:00

◆場所：同志社大学 東京オフィス（東京都中央区京橋）

<https://tokyo-office.doshisha.ac.jp/access/map.html>

◆内容：講演2件（各60分質疑時間を含む）

14:50 オープニング 会長

15:00-16:00

1. 「人工知能大全」の著者が語るAIとビジネスイノベーション

講師：長谷佳明（野村総合研究所アナリスト）

<http://u0u0.net/Un1S>

今や、ICT技術とAI技術を使わないビジネスは衰退する。海外では、クラウドや人工知能を使ったビジネスが主役となっており、あらゆる業種でICTとAIはビジネスの主役となり、あるいは脇役となる。これまで熟練者が行っていた経験と著館に基づく判断や提案がAIを使って行える。この講演では、AIで何ができるのか、AIがすでに行っている業務などを紹介し、参加者がAIの可能性を知り、かつ、AIの力を理解することができる。また、AIと人との共同作業の重要性を考える。

16:00-17:00

2. ベストセラー「私鉄3.0」の著者が語る鉄道ビジネスのブランド戦略および

オープンイノベーション

講師：東浦亮典（東京急行電鉄株式会社 執行役員 渋谷開発事業部 事業部長 兼
フューチャーデザインラボ アドバイザー）

<http://u0u0.net/XEvj>

東急は渋谷という都心の重要拠点と、郊外の田園都市を結ぶ田園都市線と、魅力あふれる横浜を結ぶ東横線を最重要沿線として発展してきた。私鉄1.0では都心と良好な住宅街を結び、ターミナル駅には東急百貨店があり、良質な住宅地を総合的に開発し、沿線に高いレベルの人々が住むようになった。次の段階、私鉄2.0では、郊外と都心の中間に職住近接の二子玉川の開発が進み、人の流れが変わり、かつ、郊外との中間地でも業務が可能であることを示した。

そして私鉄3.0の時代、高齢化する郊外住宅地の再開発と都心でない場所で働くことで働き方の改革を行う多機能まちづくりと沿線生活者の暮らしを支えるすべてのサービスを提供するサービス会社としてのビジネス。これこそが沿線の街の価値をさらに高め、東急沿線で生まれ、東急沿線で育ち、学び、東急沿線で働く良質な生活が可能となる。鉄道は単なるMaaSの一つの手段であり、網の目に張り巡らされた路線が若者も高齢者も住みやすい街の基盤となる。東急はICTを活用し、沿線関係者のサステイナブルな良質な生活を支えるサステイナブルなサービス企業となる。このような先見の明を持つ経営はどこから生まれるのか、その秘密に迫る。これは他のビジネスでも大いに役立つ戦略である。

◆当日の写真



◆開催関係者への礼状その1

野村総合研究所

アナリスト

長谷佳明様

写：運営委員および有料会員

同志社大学理工学部 三木です。

昨日は大変お忙しい中、知的オフィス環境推進協議会のために時間を取っていただき、有り難うございました。

長谷さんの話は、参加した皆さんが必死でメモを取る方が多く、人工知能には比較的詳しい私でも目から鱗が落ちる内容が多く含まれており、大変勉強になりました。特に、人工衛星の写真から、会社の売り上げや客層が分かるとか、クラウドは使いたくない、あるいはネットワーク環境が良くない、データの機密性を重視したい場合にはエッジコンピュータでのAI利用も増えていることなど、驚きの内容でした。

コンピュータのトレンドは常に変化しており、スマートフォンの電波もTDMからFDMに変わり、こんどはまたFDMからTDMに変わるとか、周辺機器との接続もシリアルからパラレル、そしてパラレルからシリアルへなど、大きな変革が常に生じています。AIもオンプレミスからクラウドで、クラウドからエッジへなど、目的やコスト、信頼性などに応じて、最適なシステムを選択することが必要であることも理解できました。

また、ビッグデータがもてはやされている昨今、そればかりに気を取られずに、特定の分野で、今までのデータを活用する実用化を考えることの重要性や、ビッグデータを各企業が使えるデータに加工する有効データ供給企業が今後のトレンドであることなど、大変勉強になりました。ICTの分野は、常に若い人の方が知識やスキルが豊富で、長谷さん（三木研4期生、2003年大学院修了）のような卒業生からいろいろ教えて貰えるのは、私にとっても最高の喜びです。

◆開催関係者への礼状その2

東京急行電鉄株式会社

執行役員

東浦亮典様

写：運営委員および有料会員

同志社大学理工学部 三木です。

昨日は大変お忙しい中、知的オフィス環境推進協議会のためにお時間を取っていただき、深く感謝を申し上げます。普段なら、遙かに大勢の皆さんの前でしか講演されないことが多くなっているにも拘わらず、小規模な研究会でお話し頂きましたこと、本当に有り難く思っております。

今回の「私鉄3.0」にまつわるご講演は、東京急行電鉄株式会社の成り立ちから、将来の方向

性までをお話いただき、ビジネスの歴史から、今後の発展をどう考えるかという視点で、多くの皆さまの参考になったと思います。皆さまからも大変良いお話だったと数名から聞きました。

田園都市から始まった東京の郊外の開発、沿線のブランド力の増強、渋谷・二子玉川・自由が丘というプラチナトライアングルを中心として、沿線に住むあらゆる階層、年齢、職業、生活の皆さんに、住むこと、学ぶこと、働くこと、遊ぶこと、買い物すること、食事すること、散歩すること、わくわくすること、人と触れあうことなど、あらゆるニーズを東急が提供できる会社に変貌すること、これが鉄道3.0だと理解できました。

東急は、ウェルビーイングが街を作る会社であって、鉄道は多くのサービスの一つであるということもよく理解できました。ただ、M a a Sの時代になっても、鉄道が持つ意味は大きく、鉄道のさらなる進化（座席指定が簡単にできるとか、快適な車内、Fライナーなど、複数の鉄道路線をまたぐ長距離輸送などだけでなく、革新的な技術導入）とともに、I C TやA Iを黒子として最大限利用しながら、「電車に乗りたい」、「電車に乗ってどこかに行きたい」、「電車って楽しい」という電車の新たな楽しみ方も提案して頂きたいなと愚考しております。

東浦様には、4月から渋谷再開発の最高責任者となられ、渋谷が東京のスクランブル拠点として、世界有数の都市にされるお仕事をされること、とても期待しております。スクランブルスクエアが開業の折には是非見学をさせて頂きたく、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

それでは、今回の格別のご高配に感謝を申し上げますとともに、東浦様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。有り難うございました。